

水稻新品種「コクマサリ」について

岡田正憲・藤井啓史・本村弘美・西山 寿・甲斐俊二郎
(九州農業試験場)

かねて育成配付中の水稻西海67号は昭和37年から、佐賀県において奨励品種に採用され、通称名を「コクマサリ」として普及に移されることになったので、育成の経過ならびに特性の概要をのべて参考に供する。なお本品種の育成に直接従事した職員は山川寛、天辰克己(兼務)および筆者等である。

来歴ならびに育成経過

コクマサリは昭和28年、農林省九州農業試験場で十石を母とし、全勝26号を父として人工交配を行ない、その後も同場で系統育種法により育成されたものである。昭和35年2月以降「西海67号」の系統名で関係県に配付して原種決定試験に供し、地方的適否を確かめた結果その成績良好で、昭和37年6月(F₃)に水稻農林140号に登録されコクマサリと命名された。

特 性 概 要

1 形態的特性 極短稈の穂数型であり、十石に比べて稈長はやや短く、穂数はさらに多く、穂長はやや短い。稈はやや細く、葉は初期には垂れるが止葉は直立して熟色鮮美である。ごく稀に白色の短かい芒があつて脱粒は易である。粒着密度は中で、玄米は中形中粒である。品質食味ともかなり良好である。

2 生態的特性 出穂・成熟ともに十石と同程度で、北部九州は中生の晩に属する粳種である。極短稈であるため倒伏には極めて強く十石にまさる。普通のシラハガレ病菌系にはかなり強く、ハイモチ病、クビイモチ病、モンガレ病に対しては中位である。耐病性は全般的に十石にまさっている。イネカラバエに対しても強い。極強稈で安全性に富むため生産力は多肥裁

培または肥沃地で極めて高い。

3 適地及び奨励品種採用県 昭和33年度以降4カ年にわたつて各府県に配付して地域適応性が検討されたが、第1表にみられる通り、その適応性はかなり広いことがうかがわれる。ホウヨクに比べて熟期がやや遅いので九州・四国地方の特殊平担肥沃地帯に最も適し、ホウヨクと並んでその短所を補いつつ、さらに肥沃地に入りうるものと思われる。昭和37年度の奨励品種採用は佐賀県である。

4 栽培上の注意 極短稈穂数型であるため地力中位以下の瘠薄地と秋落地には不適で、肥沃地では本品種の能力が充分発揮される。またこの品種はシラハガレ病にはかなり強いが、イモチ病に弱点をもっており、またシマハガレ病、センチュウシンガレ病にも注意を要するので防除対策が望まれる。この種の草型のもは特に加里成分の欠乏に敏感であるので、不足しないようにすべきである。

5 命名の由来 諸特性が十石にまさり、また十石×全勝26号の組合せに由来する。

結 言

本品種は(1)ホウヨクよりさらに短稈の穂数型で倒伏に強く、耐肥性に富むこと、(2)多収であり深耕密植または多収稈栽培に適すること、(2)熟色が際立つて美しいこと、等の長所を有している。また品質もかなり良く、シラハガレ病にもやや強く十石にまさる点が多い。短所とするところはイモチ病に対してはまだ改良の余地があることである。今後は十石・千本旭・金南風、ナカセンゴク・ベニセンゴウ等を対象として普及が見込まれる。

第1表 配付先における成績総括表

年 次	配 付 所 数	概 評							普 肥		多 肥	
		奨 励	極有望	有 望	やや有望	再検討	見込なし	以上	未 満	以上	未 満	
昭	33	—	—	2	—	1	—	2	1	—	—	
	34	—	—	2	—	2	—	3	3	—	—	
	35	—	—	2	—	5	—	8	8	1	3	
	36	1	1	3	—	9	—	7	6	6	0	